

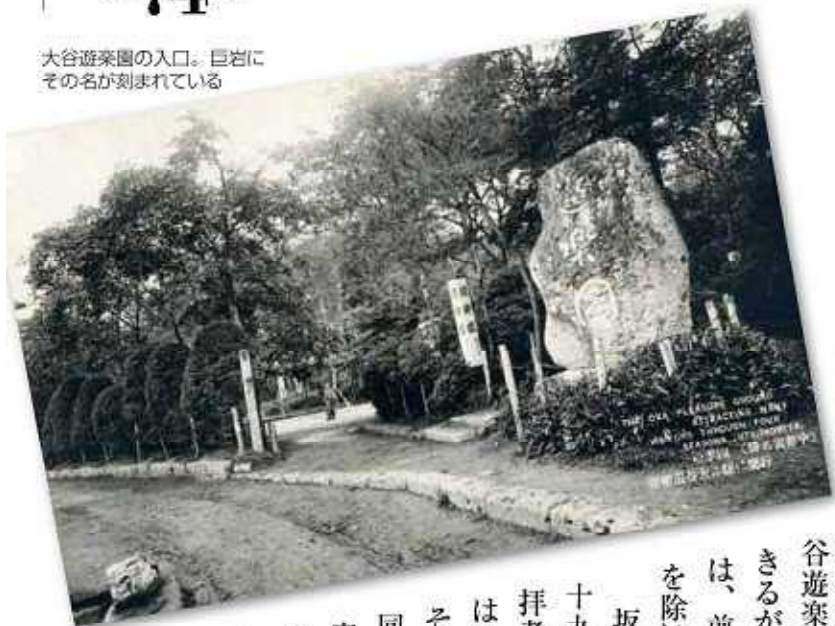
Once upon a time in Utsunomiya

# 一枚の絵葉書から 石井敏夫コレクションより

第74回

# 大谷遊樂園と御止山

大谷遊樂園の入口。巨岩に  
その名が刻まれている



「盤水館ノ料理店アリテ茸飯ノ美味遠近ニ聲ユ。其裏山ハ一体ニ大谷遊樂園ト稱スル公園地ニシテ春ノ躑躅ニ秋ノ紅葉、夏ノ涼キニ冬ノ雪、四季ノ眺メニ富メル」。これは手書きで作られた「城山村郷土誌」収録「大谷案内概観」の一節。今はその面影も、痕跡も認められないが、かつて姿川西岸の丘陵山本山に、その自然を巧みに利用した「大谷遊樂園」と称する公園があった。開園から消滅するまでの詳細は不明だが、絵葉書を見ると岩

を穿った石段が頂稜まで続き、あづまやや茶店などが設けられていたらしい。そこからの眺望にも優れ、「断岸千尋ノ巨岩屏風ノ如ク」とある。しかし、大谷寺寺務所発行の絵葉書「大谷之奇勝」封筒に記された地図に大谷遊樂園の名前を見ることができ、全体像を記した文献は、前述した「城山村郷土誌」を除いて見あたらない。

坂東三十三観音霊場第十九番札所として多くの参拝者が訪れる大谷寺の裏山は御止山と呼ばれている。その由来は、江戸時代、同寺は上野寛永寺(徳川家の菩提所)に属し、日光山輪王寺の宮が参拝に訪れるなど手厚い保護を受けていたことから、「日光御用の山」と称して毎年、秋になると松茸狩りを行っ



大谷石の石山に  
石段が刻まれている



御止山山頂に立つ記念碑とお手植えの松



頂稜に建つあづままで憩う行楽客

たため、村人の入山を厳しく制限したことによる。

山頂には、一九〇〇(明治三十三)年と一九〇二(明治三十四)年の二度にわたり大正天皇が皇太子時代に行啓され、大谷の奇観を賞賛されたことを記念した碑とお手植えの松がある。